

報告日 令和7年2月5日
報告回数 3日目

令和6年度 地域情報化アドバイザー制度活用報告書

地域情報化アドバイザー制度の活用実績について、下記のとおり報告します。

記

1. 申請団体情報

1-1. 申請団体

団体名	吉野川市	代表者名	原井 敬
担当者部署(属性)	情シス担当	担当者部署名	総務部デジタル推進課
担当者役職	課長補佐兼係長	担当者氏名	小松 弘幸
住所	776-8611 徳島県吉野川市鴨島町鴨島115番地1		

1-2. 推薦団体 (「区分」が「協議会」または「NPO・商工会・大学等」の場合のみ入力)

団体名		連絡先部署	
担当者氏名		連絡先電話番号	
		連絡先E-mail	

1-3. 支援を求める内容

支援方法	職員向け啓発・研修(単独)	事業名(予定)	職員向けDX推進啓発事業
概要	本市のDXを推進していくためには、職員一人ひとりがDXの意味や目的を理解し、協同して取り組もうという意識を持てるようにすることが求められる。そこで、組織内での認識共有や全庁的な機運醸成を図るため、講演を通して具体的に助言(アドバイス)をいただきたい。		
支援を求める分野	人材(DX推進のための機運の醸成)		

2. 地域情報化アドバイザー派遣実績

2-1. 対応日・時間	期日・支援内容の変更あり	受付番号	変更後の派遣日	変更後に実施した支援内容	実地/オンライン
	無				
	派遣日予定日(申請書より)	支援内容(申請書より)	開始時刻	終了時刻	内休憩時間(分)
	令和7年1月29日	支援・助言&フォローアップ(オンライン)	13時30分	15時00分	
				活動時間(分)	90
2-2. 派遣場所	会場名	オンライン	最寄駅	オンライン	
	所在地	オンライン	最寄駅からの交通手段	オンライン	

3. 派遣アドバイザーに対する評価と要望

支援を受けたアドバイザーに対する評価をお願いします。

アドバイザー	村上 文洋
評価	大変よい
上記評価の理由(どのようなところがよかったか等詳細に)	第2回目の実地研修(講演)後における本市のDX関連の動きや実情を改めて聞いていただくと共に、今後取るべき対応(進め方等)について、アドバイザー(村上氏)が関わった他自治体における豊富な事例等をご紹介いただき、示唆に富んだフォローアップとなった。
アドバイザーへの要望事項	本市のDX推進の取組は始まったばかりであるので、今後も引き続き、様々な機会においてアドバイスをいただきたい。

4. 依頼内容及び支援を受けたことによる成果・効果

4-1. 支援を受けた対象者	属性(職員、一般、企業等)について【自由記述】	合計人数	3人
	自治体職員	住民	企業・団体
	人数	3	0
		0	0
4-2. 支援を受けるにあたって目指した成果と実際に支援を受けたことで改善又は解決した成果・効果	事業の課題・問題点(具体的に記入下さい)		
	第2回目の実地研修(講演)によって、職員一人ひとりがDXの意味や目的を理解し、自分事として捉え、協同して取り組んでいこうという意識の醸成が概ね図れたところであるが、次の段階として本市DXに本格的に取り組んでいくにあたっての全庁的な協力・推進体制を確立しないといけない。		
	支援により目指す成果(具体的に記入下さい)		
	本市におけるDXを本格的に推進するための全庁的な協力・推進体制として、「吉野川市DX推進本部」を設置する。また、その下部組織として特定事案についての調査・検討を進めるための「プロジェクトチーム」を立ち上げる。		

<p>アドバイザーに支援を受けた内容 (具体的にご記入下さい)</p>	<p>今後の本市におけるDXの進め方等について、次のようなアドバイスをいただいた。 ●組織としてDX推進に取り組むにあたり「DX推進本部」や「プロジェクトチーム」を立ち上げた場合、両者の活動が止まらないように常に相互の連絡体制を確保しておくのが良い。 ●書かない窓口について、来年度の導入はスケジュール的にかなりタイトであるため、窓口BPRアドバイザー等に早めに相談し、今年度できることは早めに着手しておく方が良い。 ●DXを推進する上で先進地への聞き取りや視察は、かなり有効な手段であるので、関係部署と共にぜひとも行ってほしい。 ●DXを進めるにあたって行き詰まった際の打開策としては、デジタル庁の共創プラットフォームの積極的な活用が有効である。 ●今後業務を行うにあたり、デジタルに関する知識は必須であるから、全職員にITパスポートを取らせる等の取組をしても良いのではないかと？</p>	
<p>支援を受け改善又は解決された内容 (具体的にご記入下さい)</p>	<p>本市におけるDXを本格的に推進するための全庁的な協力・推進体制として、「吉野川市DX推進本部」を設置した。また、その下部組織の「プロジェクトチーム」として、書かない窓口導入に向けた「窓口BPRプロジェクトチーム」の立ち上げに係る検討に着手した。 窓口BPRの実施については、スムーズに進めていくためにデジタル庁の「窓口BPRアドバイザー支援制度」を活用すべく来年度の申請を行った。</p>	
<p>具体的な成果物</p>	<p>最も当てはまるものをリストより選択下さい。</p>	<p>⑥途中段階であり、具体的な成果物はできていない いただいた助言をもとに、今後の本市のDX推進に鋭意取り組んで参りたい。</p>
<p>改善又は解決されなかった内容 持ち越しとなった内容 (具体的にご記入ください)</p>	<p>来年度の「書かない窓口」の導入に向け、プロジェクトチームの立ち上げや窓口BPRの実施、詳細仕様の検討など、いただいた助言をもとに、遅滞なく進めることができるよう努めたい。 その他のDX関連施策（アナログ規制の点検・見直しやIT人材の育成など）についても、いただいた助言をもとに、取り組めるところから随時進めていきたい。</p>	
<p>アンケートの内容と分析結果</p>	<p>講演・セミナー又は個別の事業支援の実施にあたりアンケートを行った場合は、その内容と分析結果についてご記入下さい。（EXCELやPDFでの分析結果を添付されても結構です。） アンケートを行わなかった場合はその理由をご記入下さい。 今後の本市DXの推進に係る助言やフォローアップのため、アンケートは実施しなかった。</p>	
<p>4-3. 今後の計画</p>	<p>最も当てはまるものをリストより選択下さい</p>	<p>②次年度に予算化を図り推進する 所属部署が抱える課題や問題点を解決する手段の一つとして、DXを用いることを積極的に考え、具体的に進めていく。（窓口BPRのプロジェクトチームを立ち上げ、窓口BPRアドバイザーの支援等を受けながら、「書かない窓口」の導入を進める等。）</p>
<p>4-4. 事業の最終的な目指す姿</p>	<p>デジタル技術を活用した市民サービスの向上と業務効率化</p>	

5. 報告書に関しての地域情報化アドバイザーホームページ「派遣事例」への掲載許可

掲載許可 掲載可

https://www.r-ict-advisor.jp/cases-case-good-practices/past_year_all_houkoku/

なおくその他>を選択した場合、具体的な記入が必要となりますのでご注意ください

6. 地域情報化アドバイザー支援の様子

今回の派遣における地域情報化アドバイザーの支援の様子がわかる「写真（JPEG）」を次ページに数枚程度貼り付けて下さい。

